

# 育成

モノづくり人材  
Vol. 36

## 沖縄県立 沖縄工業高校

沖縄県立沖縄工業高校は県内最古の工業高校だ。1902年開校

の首里区立徒弟学校を源流に持つ。沖縄の歴史とともに名称や学科編成を変え、これまでに2万4000人(全日制)超の人材を輩出してきた。



小禄校長

【DATA】▷校長=小禄健夫氏▷所在地=那覇市▷学科構成=電子機械科、情報電子科、建築科、土木科、工業化学科、生活情報科▷総定員=960人▷主要設備=NC旋盤、フライス盤、マシニングセンターなど▷主な進路=IHI、アイシン精機、川崎重工業、関西電力、トヨタ自動車、日立製作所、三菱重工業、琉球大学など

小禄校長は「危険を伴うため気を引き締めろ。凡事徹底だ」と沖縄工業訓練の狙いを明かす。時間にして約5分

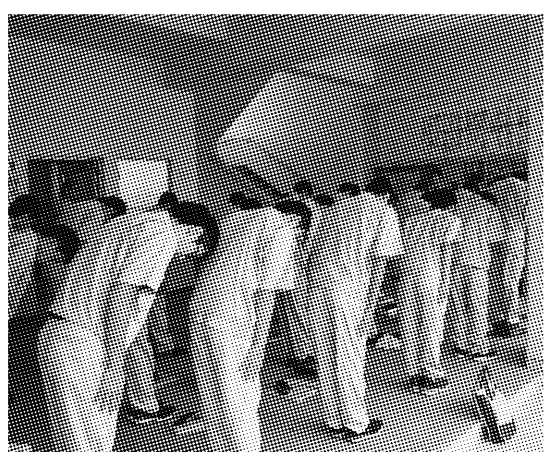
# 「沖工訓練」 企業から信頼

沖縄工業高校の卒業生の進路は2015年、中学生も就職を意図する。中学生も就職を意図する。中学生も就職を意図する。中学生も就職を意図する。

企業が同校を支持する理由が垣間見える。場が学が構えがここが、実習前の「沖工訓練」に凝縮している。資格取得や技術競技に、あいつや社会人にも積極的に参加している。15年度の検定資格取得数は全校で

2013に上った。シニアマイスター顕彰制度では上位30校の常連。例年20~30人が記念の金賞を獲得した。このほか部活動ではフェンシングやバドミ

ントンの強豪校として名が知れ、文武両道を実践している。「生徒と教師が同じ方向を向き、一つでも上、日本一を目指している」と小禄校長は説明する。沖工訓練は県外校を参考に、ここ10年弱で取り入れた新しい活動だ。伝統は大事にしつつ、生徒の成長のため進取の姿勢で臨む。生徒が自主的に目標を持って努力し、職員が熱意を持って応援することが成果に結実している。



「沖工訓練」であいさつを唱和し、服装を確認して実習前に気を引き締める

（那覇支局長・三苫能徳）  
（金曜日に掲載）